

登録番号 第 24713 号

グッドラック®150FG

- 新規有効成分サイラ配合、移植直後から使用できる水稲用一発処理剤です。
 ●ノビエに対して長期残効を示し、多年生雑草（クログワイ等）にも効果を示します。
 特長： ●ALS 阻害剤抵抗性雑草（ホタルイ、コナギ、オモダカ等）にも高い効果を発揮します。
 ●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。
 ●ドローン等での散布に適した省力型除草剤です。

サイラ、グッドラックは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）…13.3% ベンゾピシクロン（化管法第1種）…10.0% トリアファモン3.3%	包装	450g×10
その他化管法該当成分	ナトリウム=アルケンシルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカ ンシルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2024年4月9日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ミズガヤツリ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後～ノビエ3.5葉期 ただし、移植後30日まで	150g/10a	1回	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	トリアファモンを含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	3回以内

農薬の使用上の注意事項

- 使用量に合わせて秤量し、使いきることを。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは4葉期まで、ミズガヤツリは草丈20cmまで、クログワイは発生前～発始期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発

生前までが本剤の散布適期である。

- (3) クログワイ、オモダカは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にする。湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、少なくとも散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
 - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では葉害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な葉害や効果不足を生じる可能性があるため、湛水周縁散布をさけ、本田内で水田全面に散布すること。
- (11) 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
 - 2) 軟弱な苗を移植した水田
 - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 葉害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しないこと。
- (14) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (16) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法-----

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法
 - ア 農薬使用者に係る注意事項
 - 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
 - 2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
 - 3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
 - 4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
 - 5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法
該当なし

生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----
通常の使用方法ではその該当がない。

農薬の貯蔵上の注意事項-----
直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は固く口を閉じ、長期間の保存はさけること。